

# 平成24年度病害虫発生予察指導情報

対象病害虫：ブドウべと病・白腐病

平成24年6月22日

鳥取県病害虫防除所

## 指導情報の概要

6月中旬現在、県下全域のブドウにべと病及び白腐病の発生がやや多くなっている。今後、梅雨期間中の連続降雨による発病の増加が予想されるため、防除を徹底する必要がある。

## 病害虫名：ブドウべと病・白腐病

- |        |      |
|--------|------|
| 1 対象作物 | ブドウ  |
| 2 品種   | 全品種  |
| 3 発生地域 | 県下全域 |
| 4 発生量  | やや多い |

### 5 情報の根拠

- (1) 6月中旬の降雨により好適な条件が続いたため、現地ほ場におけるブドウべと病及び白腐病の発生量は、ハウスの谷部を中心にやや多く推移している。
- (2) 6月19日の台風4号の接近により長時間にわたって降雨が続き、今後も低気圧の影響による降雨が予想される。
- (3) 気象予報(6月15日付)の1か月予報によると、平年と同様に曇りや雨の日が多いと予想されている。

### 6 防除上注意すべき事項

- (1) 発病した葉や果実は伝染源となるため、できるだけ取り除き、園外に持ち出し処分する。
- (2) 誘引や摘心等により、風通しのよい樹形にする。
- (3) 薬剤の散布は、園の周辺部や枝葉が混み合ったところなどにかけるむらがないように丁寧に散布する。特にハウス栽培では、谷間やビニールのつなぎ目の、雨水の流れ込む部位に発病が多いことから防除の際はこの部分の防除を徹底する。
- (4) べと病の薬剤は、表1の基準に従って使用する。使用の際は、同一分類に属する薬剤の連用を避ける。なお、ホライズンドライフロアブル及びベトファイター顆粒水和剤は、同一成分(シモキサニル)を含むため、可能な限り連用は避けることとする。
- (5) 表1の薬剤はすべて予防効果及び治療効果を有するが、病害が多発生となってからの散布では十分な効果が得られないため、初期防除を徹底する。
- (6) 白腐病の薬剤は、表2の基準に従って使用する。
- (7) 農薬を使用する際は、果実の果粉溶脱及び使用時期に注意して使用する。

表1 主な殺菌剤（ブドウべと病対象）の使用基準

分類	商品名	希釈倍数	使用時期	使用回数
Qol	アミスター10フロアブル	1000倍	30日前	3回以内
	ストロビードライフフロアブル	2,000～3,000倍	14日前	3回以内
	ホライズンドライフフロアブル	2,500～5,000倍	21日前	3回以内
CAA	フェスティバル水和剤	2,000倍	30日前(大粒種) 60日前(小粒種)	2回以内
	ベトファイター顆粒水和剤	2,000～3,000倍	30日前	3回以内
	レーバスフロアブル	2,000～3,000倍	7日前	3回以内
Qil <sup>2</sup>	オラクル顆粒水和剤	5,000～10,000倍	14日前	3回以内
	ライメイフロアブル	3,000～4,000倍	14日前	3回以内
	ランマンフロアブル	1,000～2,000倍	14日前	3回以内

(注) 1. 表中の太字はブドウ県暦に記載されている薬剤。

2. Qil剤の有効成分であるアミスルプロム及びシアソファミド間の交差耐性の発達については現在試験中である。

表2 主な殺菌剤（ブドウ白腐病対象）の使用基準

商品名	希釈倍数	使用時期	使用回数
パスワード顆粒水和剤	1,000	14日前まで	2
ロブラール水和剤	1,000～1,500	開花期～収穫期 但し、収穫60日 前まで	3